SPORTS FOR ALL ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.163 / 2019.NOV

第15回スポーツシンポジウムを開催しました

「復興オリンピックとスポーツ振興～2020オリンピック後を見据えた宮城のスポーツ振興を考える～」題した、パネルディスカッション時の様子

11月18日（月）18：00～20：30、せんだいメディアテークを会場に、仙台市・河北新報社・仙台大学の共催及びスポーツコミッションせんだいの協力により「第15回スポーツシンポジウム」が開催され130名が聴講しました。

2020東京オリンピック・パラリンピックを来年に控えた今回のテーマは「震災からの復興とオリンピック」で基調講演とパネルディスカッションが行われました。

開会あいさつでは、遠藤学長とともに、2020東京五輪ベラルーシ新体操競技仙台大学・柴田町・白石市ホストタウン親善大使であるセベツ・アリーナさんも登壇し、来場者に丁寧な日本語で語りかけると会場はあたたかい拍手で包まれました。

その後「復興とオリンピック」をテーマに、筑波大学の真田久教授による基調講演が行われ、嘉納治五郎氏のスポーツを通じて関東大震災からの復興を目指した理念と実行力で1940東京オリンピック誘致に尽力した功績、幻のオリンピックからレガシーが引き継がれ平和の尊さを訴えた第二次世界大戦後のアジア初1964東京オリンピック開催、そして2020東京オリンピックでは災害に対する「スポーツの力」の挑戦となる大会となることなどが話されました。

「復興オリンピックとスポーツ振興～2020オリンピック後を見据えた宮城のスポーツ振興を考える～」と題し、パネリストに石巻市スポーツ協会会長の伊藤和男氏、2020東京五輪正式種目となったクライミング競技のプロクライマーで2018ＩＦＳＣクライミングワールドカップ優勝の杉本怜氏、本学の荒牧亜衣講師を迎え、共同通信社編集局スポーツ企画室委員の船原勝英氏がコーディネーターを務めパネルディスカッションが行われました。地域の課題等を考慮しながら、より長期的な視点で有形無形のレガシーをどう着実に残していくか、競技者、運営者、研究者それぞれの立場から活発な意見交換がなされました。

スポーツを科学する体育大学として、仙台大学の存在感をより一層深めるシンポジウムになりました。

〈報告：学術会〉

〈 目 次 〉

・第15回スポーツシンポジウムを開催しました	1
・学生たち新聞製作し配布／スポーツシンポジウム ・「保護者のための就活セミナー」を開催しました	2
・10連覇達成！東北地域大学女子サッカーリーグ ・男子バレーボール部：東北地区大学体育大会 優勝 ・男子バレーボール部：東西大学選抜強化合宿（ユニバーシアード選考会）参加	3
・令和元年度東北学生バドミントン秋季リーグ戦 結果 ・全日本大学対抗選手権大会(2部) ～男女個人で表彰台に8名入賞！団体でも男女ともに最高順位で有終の美！～	4
・体操競技部：南、W杯シリーズV ・バドミントン部：高校生に情報戦略サポート講習会を開催 ・「令和元年度(前期) 健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催	5
・「キャンパスライフサポートグループ」による交流活動を実施 ・芝草通信 NO. 8	6
・楽天生命パーク宮城にて第４回スポーツ施設見学会が開催されました ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.20	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通 0224-55-1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツ情報マスメディア学科：
学生たち新聞製作し配布／スポーツシンポジウム

自ら取材し製作した新聞紙面を聴講者に配るスポ情の学生たち

発刊された新聞

スポーツ情報マスメディア学科で開講する「スポーツ取材・報道演習A」を学ぶ学生30人は11月18日（月）、本学が河北新報社、仙台市と共に主催する第15回スポーツシンポジウムで、実習として新聞を製作し講者約130人に配りました。

パネルディスカッションの終了後に配られた新聞「仙台大学タイムス」はA４判サイズでカラー2カ面。当日のテーマ「震災からの復興とオリンピック」に基づく内容で、基調講演や討論会の様子を盛り込みました。１カ面を読むとシンポ全体が分かり、２カ面は聴講者の声が写真とともに紹介されています。これらはいずれも学生たちが自ら取材し執筆・撮影したものです。会場の一角でパソコンと格闘しながら紙面を作っていき、出来上がった紙面データは近くのコンビニエンスストアに走りコピー機で出力しました。

会場で手に取った聴講者からは「まるで号外みたい」「まさに本物の新聞」「内容も面白い」といったお褒めの言葉をいただきました。同学科は今後も「楽しい」「面白い」授業の展開に挑戦して参ります。

＜報告：スポーツ情報マスメディア学科＞

「保護者のための就活セミナー」を開催しました

11月2日（土）本学において、3年生の保護者の方を対象に、学生の就職活動について理解を深めていただくために「保護者のための就活セミナー」が実施され、144名の方々にご参加いただきました。

冒頭に遠藤保雄学長からの挨拶の後、前半では「仙台大生の就職活動の特徴と保護者の役割」と題し、本学の学生に焦点をあてた切り口で、創職チームリーダーの藪耕太郎准教授より説明がなされ、引き続き「教員採用試験の現状と対策」について、教職支援センター長の金井里弥准教授より本学の学生の教員採用試験への出願状況や各自治体の教員採用試験の状況、また教員志望者への支援や取り組みを説明いたしました。

後半には、本学OBでもある株式会社ディスコ東北支社の貫洞直希氏より「大学生を取り巻く就職環境と就活における親の関り方」をテーマに、現在の就職環境や就職活動の流れ、保護者が理解しておくべきことや役割について講演頂きました。

これからも入試創職部では、目まぐるしく変わる就職環境の中で学生一人一人が十分納得した就職活動ができるよう支援を継続してまいります。

＜報告：入試創職室＞

女子サッカー部：10連覇達成！東北地域大学女子サッカーリーグ

10月26日（土）インカレの予選を兼ねた東北地域大学女子サッカーリーグの最終戦が八戸学院大学サッカー場で行われ、八戸学院大学を3-0で勝利し、10連覇を達成しました。

【東北地域大学女子サッカーリーグ】
〇最終戦
対　八戸学院大学　3-0で勝利

悪天候・グランド不良でしたが、選手達は我慢強く、賢く戦ってくれました。
12月24日（火）からのインカレ本大会では、ベスト4進出を目指し、努力していきます。
今後ともご支援の程、何卒、よろしくお願い致します。
＜報告：女子サッカー部＞

男子バレーボール部：東北地区大学体育大会 優勝

第70回東北地区大学体育大会バレーボール競技が11月2日（土）3日（日）に仙台大学第5体育館で行われ、2日は2回戦で青森大学と、3日は準決勝で東北福祉大学、決勝で東北学院大学と対戦しました。

2回戦　仙台大学 2（25-16、25-21）0 青森大学
準決勝 仙台大学 2（25-23、25-19）0 東北福祉大学
決勝　 仙台大学 3（25-17、25-19、25 - 19）0 東北学院大学

秋リーグで敗れた東北学院大学に決勝で勝利し優勝することができました。
今後も男子バレーボール部の応援のほどよろしくお願いいたします。
＜報告：男子バレーボール部＞

男子バレーボール部：東西大学選抜強化合宿（ユニバーシアード選考会）参加

十文字龍翔選手（体育学科3年）

10月30日（水）～11月4日（月）にナショナルトレーニングセンター（NTC)で開催された東西大学選抜強化合宿(ユニバーシアード代表選考会)に本学男子バレーボール部で体育学科3年の十文字龍翔選手（福島県郡山北工業高校出身）が参加してきました。この合宿は東日本と西日本の大学からそれぞれ14名が選抜されるものであり十文字選手は北海道、東北、北信越地区の代表としての参加となりました。

〇今回の合宿で学んだこと、感じたこと
「今回の合宿では自分のレベルの低さを改めて感じました。技術、体力、メンタルすべてにおいて2～3段階劣っていました。しかし「これは技術を盗む良い経験だ」と思い必死に食らいつき頑張りました。各ポジションの自分がうまいと思った選手を観察し勉強しました。自分が学んだことをチームに還元できればいいと思います。」
〇今後の目標や将来のビジョンについて
「全日本インカレにおいては時間のない中ではありますが、高さのあるチームに対しての対応をしっかりとして4年生にプレーで恩返ししようと思います。個人としては自分のレベルを高めつつ4年生になるということで後輩たちに目を配りチームをまとめ後悔のない4年目を送りたいです。将来はVリーガーを目指して頑張ります。」
＜報告：男子バレーボール部＞

バドミントン部：令和元年度東北学生バドミントン秋季リーグ戦　結果

11月9日（土）～11日（月）、仙台市青葉体育館にて令和元年度東北学生バドミントン秋季リーグ戦が行われ、男女とも、最終戦前最下位という状況を逆転して3位になりました。

男子　1勝2敗（得失マッチ差にて3位）
×　1-3　東日本国際大学
×　2-3　富士大学
○　3-2　東北学院大学

女子　1勝2敗（得失マッチ差にて3位）
×　2-3　東北学院大学
×　1-3　東北福祉大学
○　3-1　東日本国際大学

男子Bリーグ（レギュラー以外の選手のトーナメント戦）　準優勝
1回戦 ○　3-1　東北大学B
準決勝○　2-0　富士大学B
決勝　×　0-2　東日本国際大学B

集合写真

男子は成田行磯（体育学科1年）が単3勝、複2勝1敗で5勝1敗とチームを牽引しました。特に、東北学生選手権シングルスチャンピオンをストレートで勝利したことは価値がありました。

女子も徳能あすか（現代武道学科3年）が単3勝、複2勝1敗で5勝1敗でした。最終戦３－１での勝利が3位になるための絶対条件という中で松田ほのか（体育学科4年）が意地を見せてシングルスで逆転勝利、ダブルスでも敗色漂う中から逆転勝利を収めました。

Bリーグは、主将の二階堂弘貴（体育学科3年）を中心に勝ち進みました。それぞれが力をつけてきていることがよくわかる戦い方をしていました。決勝は敗れてしまいましたが、レギュラーを脅かす存在となれる選手も出てきています。

男女両エースは東北トップの力をつけてきています。それに次ぐ2番手選手の育成を課題として来季での頂点を目指して精進いたします。

＜報告：バドミントン部＞

ウエイトリフティング部：全日本大学対抗選手権大会(2部)
～男女個人で表彰台に8名入賞！団体でも男女ともに最高順位で有終の美！～

11月1日（金）～3日（日）に大阪府羽曳野市で全日本大学対抗選手権大会(2部)が開催されました。

この大会で61kg級の戸嶋響愛(体育学科2年)の優勝を皮切りに表彰台に男女で8名の学生が昇りました。

その中に、女子55kg級 大野美幸(健康福祉学科４年)は準優勝、男子109kg級 保科魁斗(体育学科4年)も共に表彰台に昇り、最後のインカレで有終の美を飾りました。

また団体においては、男子が第3位、女子が第2位と過去最高順位で終わることができました。これは、学生一人一人がチームのために日々努力してくれたことが良い結果に繋がってくれたのではないかと思います。

残念ながら1部に昇格とは行かず、改めて１部昇格の壁は高いと感じました。この壁をどうやって超えていくかは来年度の課題にし、１部昇格に向けてこれからもチーム一丸となって頑張っていきたいと思います。

集合写真

○8名に入賞者
【男子】
61kg級　戸嶋響愛(2年)スナッチ優勝　クリーン＆ジャーク優勝　トータル優勝
96kg級　橋本豊夢(2年)スナッチ準優勝　クリーン＆ジャーク3位　トータル3位
109kg級　保科魁斗(4年)スナッチ優勝　クリーン＆ジャーク優勝　トータル優勝
【女子】
55kg級　大野美幸(4年)スナッチ準優勝　クリーン＆ジャーク3位　トータル準優勝
64kg級　大谷江里奈(2年)スナッチ3位　クリーン＆ジャーク優勝　トータル準優勝
髙橋凜　(1年)スナッチ準優勝　クリーン＆ジャーク4位　トータル3位
76kg級　福塚真羽(3年)スナッチ3位　クリーン＆ジャーク準優勝　トータル準優勝
81kg級　遠藤朱李(2年)スナッチ準優勝　クリーン＆ジャーク準優勝　トータル準優勝
＜報告：ウエイトリフティング部＞

体操競技部：南、W杯シリーズV

本学体操部の南一輝（体育2年）がまたもやってくれました。国際大会で堂々の優勝です。東京五輪につながる種目別ワールドカップ（W杯）シリーズ第5戦、コトブス国際（ドイツ・コトブス）に出場した南は23日、男子床運動の決勝で15.100点をマークし同種目を制しました。「床のスペシャリスト」―。まさにその名にふさわしい活躍です。

引率した鈴木良太監督（本学体操競技部監督）によると、南は21日の予選前半を1位で通過すると、8人による決勝の舞台も伸び伸びとした演技でまとめました。

W杯シリーズは来年3月までの8大会のうち、成績のいい3大会の結果で各種目トップが五輪出場権を得ます。南は夢の五輪代表入りを目指して着実にポイントを重ねています。今後もご声援をお願いします。

＜報告：体操競技部＞

コトブス国際大会で優勝した南一輝（中央）

バドミントン部：高校生に情報戦略サポート講習会を開催

11月17日（日）福島県尚志高等学校バドミントン部から依頼を受け、競技における情報戦略サポートを行いました。バドミントン部監督・林直樹准教授と、スポーツ情報マスメディア学科1年・須田翔大さん（スポーツ情報サポート研究会・バドミントン専属アナリスト）が、本件について担当しました。

バドミントンのゲームにおいて情報を収集して分析していく手法とそこで得た情報の整理について、まずは講習を行って説明し、その後に実際のゲーム練習の中で実習を行いました。

高校生たちは新たな試みに戸惑いながらも、ディベートの際には活発に発言し、自分自身や仲間のプレーの傾向などについて議論していました。顧問の先生方についてもデータの見方について説明し、今後の競技力向上の一助となることを期待させる講習となりました。

今後も東北地方の高校へのサポート活動など積極的に地域に関わっていけるよう、活動して参ります。

＜報告：バドミントン部＞

実際にゲームを通して情報を分析する様子

「令和元年度(前期)　健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催

認定証書授与式

中級指導実習

養成講座

11月26日(火)に健康づくり運動サポーターの認定証書授与式を開催しました。今回は令和元年前期の資格認定評価会で認定された初級7名、中級1名に対して認定証書が授与されました。今回の認定者を含めこれまで延べ603名が本資格を取得してきました。

今回中級を取得した長谷川麗央さん(健康福祉学科2年)は「中級受講者が1人だったが、たくさんのサポートもあり、取得することができた。来年度は上級を受講し、さらにスキルアップしたい」。初級を取得した安部美里さん(体育学科3年)は「現場実習のとき、参加者とコミュニケーションをとる難しさを実感した。今後中級を受講し、将来に活かしたい」。と2名の学生が今後の抱負を述べてくれました。

この資格取得には、全10回の講義受講と地域の運動教室での現場実習や指導実習が必要となります。実際に地域の方々と関わりながら学生はコミュニケーション能力や指導力、ホスピタリティを身に付けます。

多くの学生がこの活動を経験し、「安全に」「元気よく」「楽しい」運動指導のできる実践力を身に付け活躍できるよう今後もサポートして参ります。

＜報告　田中亨新助手＞

「キャンパスライフサポートグループ」による交流活動を実施

11月14日（木）本学の学生支援センター前にて今年度2回目となるキャンパスライフサポートグループによる本学の学生や留学生たちの交流活動が行われ、学生116名、留学生7名、教職員11名、合計134名が参加しました。

今回の活動の目的は、学生が主体的に活動を企画し活動・運営を行うことによって、学生同士が協力して助け合い、共に考え合う経験を通して友達の輪を広げることで、活動はキャンパスライフサポートグループに登録している学生が中心となり、学生支援センターの教職員スタッフが支援する形で企画・運営を行いました。

食材を食べやすい大きさにカットしたり、こんにゃくをちぎったりする作業は留学生が中心となりました。

ポスターを学内に張り宣伝することによって多くの学生たちが足を運び、嬉しそうに芋煮を頬張り、「美味しい」「寒いから温まる」という嬉しそうな声が聞こえ、はじめて出会う学生たち同士でも国境や学年を越えて楽しそうに交流する姿が見られました。

今回は風の強い中での活動となりましたが、みんなで協力し合い安全に楽しく活動をすることができました。本グループの活動は、誰でも自由に参加することを念頭に置いているため、一緒に活動をすることでサポートグループの「楽しい雰囲気」を感じることができます。季節に応じた簡易な調理による共同作業を通して、共に協力し合い学生同士のつながりや関わりを深めることができ、充実した活動となりました。

〈報告：学生支援室　廣谷珠奈 臨時職員〉

芝草通信　NO. 8

担当　：野口 翔 新助手

芝生実習と冬の管理について

12月になり、最近は寒さも厳しくなってまいりました。芝生も霜が降りると一気に緑色から茶色へと変色し冬支度へと入っていきます。今回は、先日行った芝生実習と、今後の芝生の管理について紹介したいと思います。

1．芝生実習

11月26日（火）に今年最後の芝生の刈込を「スポーツターフ管理概論Ⅰ」の講義内の実習で行いました。

①手押しリールモア（写真1）

歯車式の家庭用の刈込機です。10台を横に並べて順番に刈込をしてもらいました。

②手押しロータリーモア（写真2）

エンジンつきの刈込機です。長い芝生を刈りこむときに使います。

③自走式リールモア、グリーンモア（写真3）

エンジン付きの刈込機で、ゴルフ場のグリーンなど細かい芝生を刈るときに使用します。仙台大学の噴水周りはこの芝刈り機を使うことが多いです。

写真 1　手押しリールモア

写真 2　手押しロータリーモア

写真 3　自走式　リールモア

2．冬の芝生管理

以前も紹介しましたが、仙台大学の噴水周りの芝生は「コウライシバ」と呼ばれる暖地型の芝生です。夏は緑色ですが、冬になると茶色く枯れたようになります。しかし、実際には、地中の根は休眠しているだけなので翌年の春咲きにはまた、茎をのばして緑色の葉を出します。

そこで、冬に入る12月までに肥料や刈込を行い、来春の芽出しを促す準備を行います。また、地中で休眠しているとはいえ、芝生の上を歩かれるとダメージを負い枯れてしまうこともあるので、12月から3月の間、養生期間として立ち入りを制限させていただくことになりますが、健全な芝生の育成のためご協力のほどよろしくお願いいたします。

楽天生命パーク宮城にて第4回スポーツ施設見学会が開催されました

11月17日（日）に楽天生命パーク宮城において「スポーツ施設管理概論」及び「スポーツターフ管理概論」の授業の補講として施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設を実際に見学して知識修得を促進するものであり、昨年に仙台大学と楽天野球団との間で締結したアカデミックパートナーシップの一環として、楽天生命パーク宮城の見学会は4回目の開催となりました。

担当の小島文雄体育施設管理コンサルタント兼非常勤講師の引率の下、56名の学生が参加しました。

株式会社楽天野球団　経営企画室長　江副翠氏、ボールパーク本部施設管理グループ　マネージャー　長谷川誠一氏　営業本部　横山ゆりか氏より、楽天野球団の戦略、スタジアムのコンセプト、安全管理体制等に関する講義を受け、その後球場や管理施設を見学し、天然芝生・クレイグラウンド整備の機械や、グラウンドの天然芝生の生育状態を確認しました。

参加した学生からは「天然芝生を間近で観察し、理解が深まった」、「特に普段見ることが出来ない芝生の管理やサブエアーシステム（芝生の床に暖房した空気を送風したり雨水を吸引したりするシステム）を学ぶことができたことは大変貴重な体験でした。」と感謝の声が多く上がっていました。

映像を見ながらの講義

映像を見ながらの講義

天然芝生遠景

天然芝生接写

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.20

担当：助手　小野勇太

救急法の実践を学ぶ職員

川平アスレティックトレーニングルーム(以下川平ATR)では、職員間への救急法講習会、特定研究指定部活動への傷害予防講習会をそれぞれ実施致しました。本年度より、川平キャンパス勤務となった３名の管理栄養士と、明仙フィールド管理を担当されている方を含め４名に対して、白坂広子助手が救急法講習会を開催致しました。突然誰かが倒れてしまった時に、その現場近くにいる誰かが、迅速で適切な対応をしなければ、倒れた人の命を救命することが困難となります。救急車要請の判断、そして救急車到着までの間に現場で行う救命処置の有無が、救命率を大きく左右するため、意識がない傷病者が発生した場合、適切な心臓マッサージやAED(自動体外式除細動器)の使用をしなければなりません。そんな時に咄嗟に行動を起こすことが出来るかどうかは、日々の意識づけは勿論ですが、正しい教育活動なくしては成し得ないと思います。白坂助手は日本体育施設協会スポーツ救急法プロバイダーコース・インストラクター資格を保有しており、講習会受講者は受講後の試験合格をもって資格付与も行えます。これまで、多数の明成高校教職員へ同講習会を開催し、資格付与をしており、川平スタッフ始め、明成高校教職員の多数の方々が、救急処置を迅速に行動できる体制が整ってきています。

傷害予防講習会を受講する高校生

また、特定研究指定部活動へ年に４回ずつ計画している傷害予防講習会の第３回目を私が担当しました。内容は、「感染症予防」についてです。今の時期は特に風邪とインフルエンザが流行してくるため、部活動に励む生徒達にとって感染症予防はコンディショニングの観点から非常に重要です。この講習会では、それらに加え、部活動現場で「突然チームメートが倒れたらどうしますか？」という緊急時の生徒の対応についても講話しました。学校部活動現場においては、指導者がいない時間というのが生じてしまいがちです。というのも、部活動顧問の先生は指導者のみの仕事ではなく、学校業務を主とする教員が担当することが大抵ですので、学校業務の関係により部分的に指導現場から離れることもありえるのです。そんな時に、緊急時が生じたら、選手である生徒達しかその場にはいません。ですので、そんな緊急時も想定して、事前に対応の手順や行動計画を周知していくことは、重大事故発生時の悪化防止として非常に重要なのです。

私達川平ATRは、スポーツ現場で最も重要な選手の「命」を何より大切に重んじ、スローガンである「高校スポーツの安全を守る」を引き続き実践していこうと思います。